

その時、父を好きになりました

父が胃ろう(胃に管を 使って直接栄養を注入す る)の手術をしたのは年も 押し寄せた正月の準備で 忙しいときでした。これが 胃ろうの扱い方も、痰と りも覚えて、介護は万全の 構えを見せておりました。 それなのに、父は急に具合 が悪くなって……、混乱し た私を兄が助けてくれまし た。私は父が好きではありま



父・宗治さんと介護する多嘉子さん

変だ、大変だと思いながら、泣き笑いを繰り返しているうちに、いつか父を好きになつていったのです。父が死ぬ、混乱した私を

た人なんだよ。こんなに しっかり面倒をみた人なん ていないんだよ」と、涙を 流しながら、さくらメディ カルのヘルパーAさんが 言ってくれました。このと き思つたのです。 — 介護なんか面白いも んでも、楽しいもんでもな い。けど、発見がある、親 を可愛いと思えるときがあ る。今までうつうつと内に け出す感情がある——そん な介護から出発した親子関

にしているような気がしま したので、私たち夫婦のぶ んも作って、 「外へ出るときはみんなだ この札をぶら下げて行こう ね」と、納得してもらいま した。おかげさまでその後、 あちこちから父の居場所を 教えてくれる電話がかかっ てくるようになったのはう れしいことですが、父の病 状と、それは反比例するこ とでした。

代々の職人の家で大家族 と親父も一生懸命、額をこ 年寄りは大勢いました。兩 りごり押し付けてきます。 こんなこと考えられないよ うな頑固な父親でしたが、 そんな父親とつきあい、目 の不自由な叔母が七年間入 退院を繰り返していたので 家内は大変でした。家内は 余計なことは一切わずに

だから、親父のオムツを 取り替えるにしても、過去 の暮らしの中から学んだこ とが大きく、自然体で出来 るようにまじりました。 また、親父は完全に子ども に返つたようでしたから、 私は子どもの面倒をみるよ うな感覚になっていました。 そして長い時間の中で自然 に、自分の子を見るときの 抱きしめてやりたくな る、ような感情を持つよう になつたんです。こつこつ とらえ方が出来るように なつたのも、「楽しい日常 を過ごす」という考え方、 そしてなにより家内も含め 皆さんのおかげなんです。

好きなようにして、 楽しんでもらおう

父が痴呆と分つてその症 状が始めたのが八十三歳 十年ほど前からでした。 その第一の症状が買い物 になったのは、お金を使う ということがすく楽しく て仕方がなくなつたらしく、 その都度お金を銀行からお ろしてきて、リュックいっ ぱい詰め込んでくるのです。 それも一品だけ、牛乳なら 十パック、納豆を二十個と か、帰つて来るとまたすぐ に買いに行く、その繰り返 しでした。「うちも時には

「いいちゃん、せっかく行 くんだから、○○を買つて きてくんないかね」と言つと、 「スーパーにそんなもん

症状が重くなつてきたと 感じたのは徘徊 が始まつた ととき、自分 で話を作って 物語にして、 それを本当の ことだと思つ てしまい、 我々に聞かせ るようになって きたときでした。

延々とその話が聞いて、そ ういうときは逆らわずに 「はい、はい」と聞いてい ました。いくら、「違つて しょ」と言つても承知する はずありません。それは 切ない日々でした。

私は家内工業で紙製の箱 を作っております。だから 父をみていて時間が多くと れ、そのことはお互いに幸 せなことだと思っています。

朝晩晩の食事と三時のお

私の今の心境を句にして みました。兄弟、ヘルパー さんがお医者さん、皆さん が私たちを包んでくださる 桜の花。皆さんの力でやつ とこつと気持ちになれた ということを、この間、心 と思ひまして。

楽しんじやつた痴呆介護

仲町六 泉 忠敬



介護の様子を語る忠敬さん

売ってねえ」 と、一言のもとにはなつて られます。私は家内の多嘉 子と苦笑いしながら、父の 買ってきた膨大な品物をこ 近所の皆さんに配って歩く 毎日でした。ただ、大きな

買ひ物ではなくて、あつち で千円、こつちで千円、 健康に良い物の記事を読ん ではい行く。しばらく はそんな状態が続いたよう ですが、買ひ物とは関係な く、外へ出だてて出だて

しょうがなくなつて、つい に帰ってくるのが出来な くなるまでになりました。 そこで、住所・名前から 血液型まで書いた名札を作 りました。それも父だけに 作って付けさせるのはバカ

やつの時は、さくらメディ カルさんからお借りしたリ フトを使って、ベッドから 車いすに昇せて、居間で一 緒に過ごします。私ら夫婦 はそのことをワーワー言っ て楽しんでいました。二人つ きりでしたら話題もないと ころでしょうが、父がいる だけで夫婦の間の会話もと ぎれませんが、父もそんな中 に入ると一番落ち着きをみ せてくれます。まさに「子 はかすがいい」ではなく、「親 ちかすがいい」でした。

楽しみを見つけるために 介護にデオや本で勉強した りして、ジャンケンで遊び ときには足を動かしたりし ましたが、やがて、施設も 利用するようになりまし た。親父は強い人でした。強 い人間ほど気弱になります。 施設に行く、「ああ、待つ てたよ。会いたくて会いた くて、待つてたんだよ。」と 言われて別れを惜しみます。 こちらも、涙もろくなつて 車いすに乗っている親父の 顔に自分の顔をくつつける

親と子と 嫁と舅を つつむ桜(はな)

金城大学副学長 井上千津子氏

児童文学作家 杉みき子氏



対談

異文化、異世代の遺産

“老”に人間のぬくもりのある 優しさを……

前号に引き続き、杉みき子氏と井上千津子氏の対談を掲載いたします。
世の中は合理性・合理性へ、システム化へシステム化へと加速していくのが現実です。加速していく合理的システムから取り残される“老”。我々人間社会はその“老”に今、システムを取り入れ、物として売買価値を見出し出しております。それがいいのか、悪いのかは別として、我々の一つの進歩ととらえてもよいのではないかと、思います。

ただ、“老”の望むところは人間のぬくもりを感じさせるやさしさであります。お二人には、この紙面にやさしさを存分に散らばせて、介護の原点を語っていただきます。

——ところでこの対談は、

杉先生は「はじめ」の子どもの時代、そして井上先生はその対極、というものでないで、また今度外で遊ぼうって楽しみにしています。そして

全部子どもの時代の「はじめ」からスタートするんですよ。最近はそのいう経験が少なすぎます。井上 異文化の異世代に介護されることになるわけですからね。(笑)

杉 ジョン・バーミンガムの「おじいちゃん」という本なんです。孫娘が別居してるところへ行って、二人仲良く遊んでいるんですが、そのうちだんだんおじい

おじいちゃん

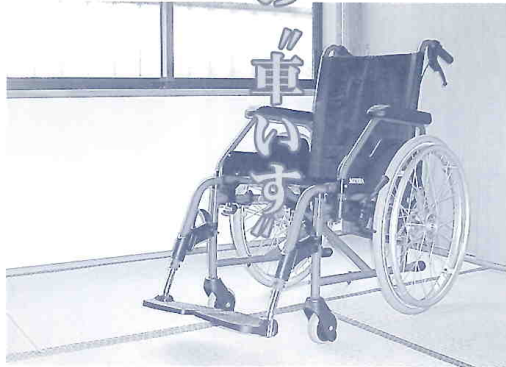


ジョン・バーミンガム作の『おじいちゃん』

すよね。名前一つつけるにしてもずいぶん考えますよ。昔みたいに何子ちゃん何男くんじゃなく、新聞のお誕生欄を見ても読めないような名前ばかりなんですね。今のうちに読んでおこうかな。からそういうような名前がいいんだろけれど、でも、そう書けないんですよ。なにか普通の子って感じがしなくなっちゃうもんだから。これにはずいぶん苦労するんですよ。井上 今の学生と接していても違和感を覚えることが多いですよ。学生の今の生

ほい!

畳の上、スイスイの車



設が足りなくなってきた、施設を増やしてほしいという意見が出てくるんですね。でもそれは在宅の受け皿がないからみんなそちらに流れた結果なんですよ。在宅介護を安心して維持できるように、真剣に政策としてやっていかなければならないんです。

杉 自分ではまだあまり実感はないんですけど、老後は家にいたいとは思っています。自分の経験からすると、やっぱり限度があって、ある部分は当然家

ある部分はヘルパーさんとか専門家にやってもらいたい。この二人三脚をうまくやっていきたいと思うんです。家族同士だから感じています。家族同士というのがありますから。井上 介護する人とされる人の快適な生活を保証していくためには、どのくらい社会的なサービスを入れ込

合師」という職業があるんですよ。ひとまず使ってみて、どこがその人に合わないかという部分を適合師とエンジニアがセットになって見極め、本格的に導入する福祉用具を決めて、さらにホームヘルパーや看護師、医師がチームでその人の生活を支えていくんです。日本でもかなりの介護

井上 白内障になった方がおられたんですよ。その方「もう一度星が見たい」ということで九十歳を超えてから手術をしたんですよ。そういう生き方が大事ななと私は思いましたね。杉 私より年配の友達がたくさんいますけども、これから何かをしたい、多くの人とふれあっていることを勉強して楽しく生き

井上 日本にも日本の生活文化にあったこういう関わり方の絵本があつたらいいですよ。杉 童話を書いていてね、「あ、これでわかるかな」って思うこともありま

井上 介護保険というのは、族が介護するんだけど、在宅介護をすすめるために出来たシステムなんです。しかし、介護保険を利用して施設を使う人が増えたら施

「まずお米は洗剤でよく洗って」なんて言っても、「何をばかなことを」という顔を学生があまりいないんですよ。ある意味で今は過渡期で、高齢者像はまた変わってくるんだろかなとは思っています。それがもうね、「生活」がわからない人たちが介護を受けるといのは、すごく恐ろしいことです。

むかというところにポイントがあるんですよ。必要に応じて、必要なサービスが、必要な量だけ届くというのが在宅介護サービスの基本です。あともう一つは福祉用具ですね。そういうものを家庭の中に入れて返すというんです。それとそれとただ単にベッドを入れればいいということではなくて、その家庭の介護力に合った福祉用具が、きつちり入ることが大事なんです。そこはケアマネージャーの力次第だと思います。

井上 目が悪くなったら眼鏡をかけるのと同じようにオムツは下着という道具です。だからオムツをするのが人生の敗北だと思わないことです。オムツも道具なんです。井上 そうなんです。デンマークでは、福祉用具と自助用具を、個々の状況に合わせて選んでいく「適

井上 長生きされてる方に「いつが一番楽しかったですか」と聞くと、「今が一番楽しい」とおっしゃる方がいてね、これはいいなと思います。杉 「あなたが若いわね」といって、あなたが若いわね、というのがある種誉め言葉になっていくんですけども、これも一つですね。井上 老いすることに価値があることを認め合えて、「ほんとに立派にお年を召されて」というふう

個性的在宅介護を

ですが、日本の伝統文化としての家屋が変わっていつてしまおうというのはどうかと思うんです。床の間や障子、畳とか縁側というものがずっとお年寄りの生活文化として存在してきたわけですよ。それらをただ便利だからというので全部取っ払っちゃっていいのかなと考えたんです。思い出や伝統といった心の面はどうなんだろうかな。私はもともと何か知恵を出してほしいなあと、思っています。

価値ある“老”に

井上 家がバリアフリー化はさまざまな面で良い

たいという人が多いんですよ。それに比べたら私もまだです。(笑)

井上 それと同時に、住み慣れた地域で親しい人たちに囲まれて暮らしたいという願いは誰しもが持っていることだと思いませんか。それをかなえるために在宅介護の充実が不可欠だと思えます。介護される

老人集団預かり所

——最近デイサービスが増えてきていますが、これについてはどうでしょうか。井上 学生が行った、その実習レポートを読んだら、デイサービスのレクリエーションで紙芝居をやっているけれども、それが「かち山」だったと言っていて、お年寄りに対してどう

人はもちろん、介護する家族の人へのケアの充実も必要ですね。イギリスではレスイサービスの質が決まってくると思うんですよ。いろいろなことができないにしても、長く生きてきた我々の人生の先輩者ですよ。その人たちの尊厳を守り抜かなきゃいけないと思うんですよ。杉 私もテレビでそういう番組を見ると本当にそう思いますね。井上 良質のデイサービスは在宅介護の一つの基本なんです。デイサービスのプログラムにもっといろいろなメニューがあって、個別に好きなことが選べて、楽しめるというようにして欲しいですね。——例えば、杉先生に來てもらって本を読んでもらったりすることも考えら

私をみんなで認めて!!

杉 南木佳士さん作の『阿弥陀堂だより』。これは売れない作家とお医者さんの夫婦の話で、その奥さんが心の病気になるって、夫

阿弥陀堂だより

南木佳士「阿弥陀堂だより」

人たちのふれあいもあって、奥さんの病気が次第に良くなっていくんですね。このおうち

春風のさわやかな季節がやってきました。雪色の冬から花色の春へ。確実な季節は巡ってきました。一年三六五日、一日二十四時間の繰り返し。一日も、って。ささやかな夢を

暖かい日差しに向かって出発!!

障害者スポーツ指導員 佐藤 浩子

来るだろうな。一人の自分。眠れる事が、一番の嬉しい事。と云える季節でも、一年の始まりは一月、季の始まりは春と考えると、一年の中で大きくて、最後に、コタツの中で、肩幅より少し広く両足を置いて膝に手を置いて、お相撲の「しこ」を踏んでください。いち・に・さん・し。どすこい! 力が湧いてきましたか?

ばあさんが非常に印象的で、字も書けないけれども、人生の知恵みたいなものをしっかりと持っている人なんです。それで、おうちさんの、「この年まで生きてくるとい話だけを聞きたいですなあ。たいていの切ない話は聞き飽きたもんでありますからなあ。金出して本を買って切ない話を読ませるんじゃないか」という言葉が私は身にしみて、読んで本を書かなくないかな

杉 小さな子どもからお年寄りまでそうですね。井上 ヘルパーをしていたとき、あるお年寄りから梅干しの作り方を教わったんです。梅を洗うところから始まって、雨が降りそうなら干してある梅をすぐにしまひ込んで、もう大変なんです。おかげで本当にいい梅干しが家でも作れるようになったんですね。その方が亡くなったときには家で作った梅干しを持っていて、唇につけて、「おばあちゃんから教わった梅干しだよ、こんなにおいしくなったよ。私、このことはちゃんと娘に伝えるからね」ってお別れしたことがあるんですよ。そうしたらそれを見ていたおばあちゃん、娘さんがぼろぼろ泣きましてね。その娘さんはおばあちゃんとはちょっと疎遠な状態だったんですけど、昔いっばいいろいろなことを教えてもらった、あんなこともこんなこともして

杉 自分胸に手を当てて考えてみますとなかなか厳しい注文ですね。(笑)

目玉となる介護用品

井上 でも先生、そういう表現の方法を持っていた、感動を与えたいという世界を

井上 ところで、聞こえづらい人たちのために、ラジオやテレビの音量を大きくするってことじゃなくて、聞こえやすくなるような機器ってないですか?

武藤 だんだん良いものも開発されてきてますが、ただやはり値段が高いというのがあります。経済的に成り立たないという面もあるんですけど、実際に使っているという面もあるんですよ。井上 そういう補助具も福祉用具として扱われたらいいと思ってるんですが。杉 テレビなんかは昔に比べてだんだん早口になってきてるでしょ。聞き取れなくなってますよね。井上 目は耳より仕組みが簡単らしくて眼鏡は個別に調節がしやすいけど、耳はそうはいかないんですよ。杉 だから補聴器は難しいですね。井上 補聴器の個性性というのが高齢社会の中で産業を左右するんですよ。どうですか?(笑)

武藤 やはり福祉の世界でビジネスしている者は、最終的に良い道具を作るっていうところが使命だと思ってるんですよ。井上 補聴器をすれば年寄りだといやがる風潮がある。でもこれも眼鏡や下着と同じなんです。杉 一つには補聴器によつては雑音が多くて使にくいというのと、見たところが悪いという理由と。井上 もう一つはオムツ。今、夜中に巡回してオムツ交換をしている事業者さんもあります。でも、夜は眠るもので、夜中まで家に他人が入ってきてオムツを換えられちゃたまりません。確かに快適になるかもしれないけど、ちよつと発想を転換しなきゃいけない。夜は眠るものなんだから、本

井上 目は耳より仕組みが簡単らしくて眼鏡は個別に調節がしやすいけど、耳はそうはいかないんですよ。杉 だから補聴器は難しいですね。井上 補聴器の個性性というのが高齢社会の中で産業を左右するんですよ。どうですか?(笑)

武藤 お二人のお話を伺っていて、どつぱり業界についている私は、介護する側とされる側の立場しか見えなくなっていたというところに気付かれました。介護がどう映るのかという子どもの視点がつぼり抜けていた感じが、今日は認識を新たにしました。福祉の精神は子どもの教育までさかのぼる必要があるということですね。

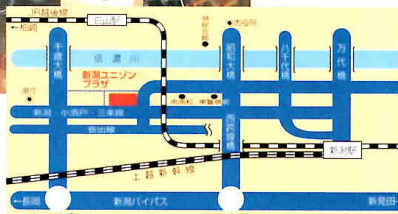
新潟女池インターを下りて5分程の上所に新しく、当社の介護用品の店が生まれました。店は新潟ユニゾンプラザの一階、新潟県の実情で多数の業者の中から当社が運営をまかされたのです。

名付けて『新潟ユニゾンプラザ店』、専門の相談員を含めて、四人のスタッフが来店されるご家族のニーズを伺い、最も新しい福祉用具に触れながら選んで購入できるシステムにいたしました。地場産業の発掘と活性化の意味も込めて、専門の展示棚を設けたり、高齢者疑似体験と体験用具の貸し出しを行うなど、親切で情報に満ちみちた介護の中心となる店を目指しております。

おとなりは福祉の店「パレット」、障害を持つ方々の製作品を販売する店なのですが、共に協力してよりよい福祉スペースを作っていければと思います。



車いすの方でも余裕をもってご覧いただける商品配置は介護ショップの基本です



高齢者疑似体験は店内だけでなく階段やエスカレーターの使用、屋外に出るの横断歩道の通行など、多様なシチュエーションで研修が行われます



浴槽と入浴リフトで入浴介助の実習

多種多様な福祉用具は実際に試してみても



新潟市内に介護用品の店をオープン!!

新潟ユニゾンプラザ店

15周年

さくらメディカルから「介護」大発進

すばらしい充実度

消毒物流センターを新設

福祉用具のレンタルの最も重要なポイントは用具の安全性と清潔度。それは完全なチェック体制で破損や動作不良のない福祉用具と、体系化された消毒・清拭による清潔な福祉用具を利用者の皆様にお届けすることです。

以前からもこの精神は守られてきましたが、商品やお客様の増加で大規模な消毒物流センター新設に踏み切りました。

レンタル品はすべてできるところまで分解、部品の一つ一つを確実にクリーニング、消毒・殺菌します。消毒された品は梱包、清潔庫と呼ぶ倉庫に保管されます。これで新品同様のものを皆様に提供できるのです。

また、お届けする当社営業車は車専用の殺菌装置で、常にクリーンな状態にして安心のために万全を期しているのです。

右 作業室では徹底した消毒と清拭・メンテナンスで、さまざまな福祉用具レンタル商品を新品同様になります



下 消毒器です。この他にも用途別の機器を備え、万全の設備でクリーンなレンタルを支えています



クリーン・レンタルに味方!!

より質の高い介護を提供!!

社外へのオープンで福祉の共有をはかる

介護実習室

を開設!!

介護の基本はベッド・リフト・車いす

「介護実習室」では、ベッド・エアマットとリフトの使い方、ポータブルトイレや立ち上がり補助椅子、浴槽での入浴介助の方法と入浴介助力の使い方、ベッドから車いすへのスライディングボードを使った移乗の手順、一般のトイレでの手すりを使った排泄介助などさまざまな介護方法を学ぶことができます。

この介護実習室は当社だけでなく、地域の福祉の向上のために社外のヘルパーさんや一般の方も利用していただけます。

実際の介護の場で働くヘルパーさん、そのヘルパーさんからの強い要望もあって、さくらメディカル・介護センターでは「介護実習室」を開設しました。新人ヘルパーから、新しい情報・技術を取り入れようというベテランヘルパーまで介護の勉強の場を提供しようというものです。